

# STUDENT EXCHANGE NEWS



近江兄弟社中学・高等学校 国際交流委員会・留学生センターニュース

ISSUED BY THE INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE, OMI BROTHERHOOD SR. & JR. HIGH SCHOOLS

Colorado College Academic Program (CCAP)

## コロラドカレッジ 短期留学プログラム特集

創立者ヴォーリズ先生の出身校の Colorado College (アメリカ・コロラド州) において実施する新しい留学プログラムです。その第一期生12名が、2名の教員(谷口毅教諭・アンドリュー・スミス教諭)に引率されて、7月5日(水)から22日(土)、コロラドカレッジの寮に宿泊し、研修に参加しました。従来の短期留学よりもさらに「英語習得」と興味のあることの「研究」に特化した高校生対象の「集中英語学習」プログラムです。引率の谷口先生の報告と参加者のレポートから5つを選び紹介します。

### "Arthur Friends"

121 壺井 汐音



私は海外の大学に興味があり、海外での大学生活がどのようなものか知りたくてこの CCAP に参加しました。

実際には、このプログラムでは大学がどういうところかについてだけではなく、いろいろなことを知ることができました。例えば、新しいことにチャレンジできるという環境は新鮮で幸せだということ、寮 (Arthur House) で仲間と協力して暮らすことは大変だけどいつでも人と関わることができてとても楽しいということ、英語でネイティブと会話をする楽しさや嬉しさや難しさ、英語でプレゼンテーションをする大変さを知りました。特に英語でプレゼンテーションは初めてで難しくて、納得のいくものではなかったのです。でもプレゼンテーションのために現地の人にリサーチをしたり、ホームステイをしたり、練習したりするプレゼンテーションへの過程が大切だということを知りました。このプレゼンテーションのおかげで現地の人と話す機会が多く、リスニング力がアップしたと思います。また、今の英語力の限界を知ることができ、もっと英語力を伸ばしたい、英語を勉強したいと思いました。

18日間というのはとても短かったですが、Arthur Friends のおかげでプレゼンテーションもがんばれましたし、毎日がとても濃くて輝いていてたくさんの経験を積むことができました。この経験をこれからの自分の成長に上手く活かしていきたいと思います。一緒に18日間がんばった CCAP のメンバー、快く送り出してくれた母、このプログラムの発端となったヴォーリズ先生、CCAP に関わってくださったすべての人のおかげで今回の留学は有意義なものとなりました。ありがとうございました。Thanks, Arthur Friends!

### これからの強み

121 永井 花梨

私はアメリカに行って、特に二つのことを身につけられたと思います。

一つ目は人に話しかける勇気です。私はもともと英語に自信がなく現地の人にどう思われるかがとても不安でした。しかし、現地の人々は快く私のインタビューに答えてくださってとても自信が持てました。それは日本に帰ってきてからも役に立っています。例えば留学生の人と話す時です。留学生の人に自分から進んで話しかけ、会話を楽しめるようになりました。



二つめは英語を理解するのが早くなったことです。アメリカに行く前やアメリカで授業を受け始めた時は、速い英語に慣れていなくて、いつも友達に意味を聞いていました。しかし、英語で授業を受けたことで、話がダイレクトに頭に入ってくるようになりました。また、私は友達に聞かなくても理解できるようになるという目標を立て、授業を受けていました。そうすることで、すぐに友達に聞くのではなく自分で良く考えてから理解するようにし、それでも分からなかったら聞くというようにしたことで、英語の理解力が以前より断然上がったと思います。

また、本場のアメリカ人は話すのがとても速いです。そのアメリカ人から英語を学べたおかげで速い英語にも対応できるようになったと思います。また、リサーチを通して、インタビューなど人に尋ねる機会がたくさんありましたので、そのような時に早く英語を理解できるということが役に立ったと思います。

この留学を通して、日本で想像していたよりも良い学びができたと思います。たくさんの苦労がありながらも、めげずに全力で取り組めたので、成長することができました。日本では経験できない英語でのインタビューや自分が納得のいくリサーチができたことが私の中ではとてもいい思い出であり、これ

からの強みになると思っています。これからはこの経験を生かして、たくさんの外国の方と交流することができたらいいと思います。

## 未来に何らかの形で

G26 田中 望貴



私はアメリカでたくさんのごことを学びました。

一つ目は、チェルシー先生のクラスで教わったエッセイの書き方について紹介したいと思います。最初、絶対私には無理だと思っていました。しかし、何度も何度もエッセイの書き方についての授業を受けているうちにだんだん理解ができてきました。私は今までにちゃんとしたエッセイを書いたことがありませんでした。しかし、CCAP のプログラムでちゃんとしたエッセイを書くことができました。CCAP 中に教わったことを最大限にこれから活かして行きたいと思いました。

二つ目は、アメリカで授業を受けているうちに思ったことです。それは、自分を含めあまりみんな思ったことをすぐに周りの人には言いませんでした。多分これは、日本人の特徴です。これには理由があると思います。それは、恥ずかしい、あっているかわからない、先生の言っていることがわからないなどという理由です。ですから、次に留学に行った際にはもっとも自分から発言をしていかなければいけないと思いました。ぜひ、11 月にある修学旅行で行くシンガポールに行った際には自分が思ったことは絶対に発言していこうと思いました。

私はこの CCAP で、学んだことは必ずといっていいほど今後の未来に何らかの形で役立ってくれると思います。一番近い未来だと大学入試だと思います。なぜなら、絶対に作文を書くからです。その時は日本語だと思いますが、物事を書く順番としては、この間のエッセイの方法を使えると思います。たくさんのごことを学ぶことができ本当によかったです。

## 言いたいことを正しく伝えることは難しい

S24 白石 実希



私は CCAP で三つのごことを学びました。

一つ目は英文の書き方です。コロラドに行く前は GTEC や、授業の英作文がと

ても苦手でも何から書き出しいいのか分からず、とても苦痛でした。書き方を学んだことによって劇的に英作文が得意になったのかと言われるとそんなことはなく、未だにとても苦手です。それは何から書き出しいいのかということではなく、単語を知ら

ないことや、文法を理解しきれていないことが原因です。単語力や文法は日本でもなんとかするしかないので私のこれからの課題です。

二つ目は受け身で授業を受けてはいけないうことです。兄弟社の授業では黙って座って話を聞いていればわかっていなくてもなんとなく授業は進んでいきました。しかし、チェルシー先生の授業では当てられていなくても、何かしらのリアクションを取らねばならず、分かってなくてもなんとなく進んでくれないのが結構苦痛でした。周りが発言したり、リアクションしたりしているのを見て自分もしないといけないと思い、CCAP 後半になって少しずつ発言できるようになりました。発言するためには、必死に耳を傾けなければなりませんでしたが、それまで以上に集中しました。今までは授業を受け身で流していてもなんとなくこなしてきましたが、これからは少しでも発言し、積極的に授業を受けないといけないと思いました。

三つ目は言いたいことを正しく伝えることは難しいということです。英語だから難しいのかと言われるればそうではなく、日本語でも伝わらないものは伝わりませんでした。言いたいことがまとまっていないうことや、そもそも自分が理解しきれていないことを説明しようとしているため自分で言いながら何が言いたいのか分かりませんでしたし、とてももどかしくなりました。英語でも日本語でも言いたいことを明確に示すことができないとうまく伝わらないのは同じで、普段から会話することによって伝えたいことを伝える力をつけていこうと思いました。この三つのごことをこれからは生かしていこうと思います。

## 日本でも使える大切なこと

111 林 将央



私は CCAP に参加して、三つのごことを学びました。一つ目はアメリカの食文化です。アメリカの食文化は日本と大きく異なっていました。

例えば、日本ではお箸を使います。ですが、アメリカではフォークやスプーンやナイフを使って食事をします。初めはお箸のない食事に少し苦戦しましたが、段々と慣れお箸よりも食べやすくなりました。アメリカは移民の国などと呼ばれています。食事をしに、町や大学の食堂へ行けば、ピザ、ハンバーガーはもちろん、パスタやさまざまなメキシコ料理が食べることができました。そして、アメリカの料理はどれも味が濃く、イメージ通りのものでした。

二つ目はアメリカの授業と日本の授業との違いです。アメリカの授業では主に日本と違って三点のことが大切ということを知りました。一点目は先生に質問をされたら間違っているから一番に答えるということです。アメリカの授業では間というものを作ってはいけないということを知りました。二点目は先生の質問がわからなかった時、聞き取れなかった時にはしっかりと質問をして確実に聞き取るということです。日本では聞き取れなかった時には誰かがやってくれるだろうとか、友達に聞けばいい

かというような考えで先生にわざわざ聞かないと思います。ですが、アメリカではこの先生に聞くということが自分はやっているんだというアピールにもなるそうです。三点目はなにか発言する時に、その発言をさらに深めるような発言をするということです。例えば、「今日は何をしたか？」と聞かれた時に「～した！」だけではなく、「～して…やった！」の「…」を付けることが大切だということも学びました。アメリカの授業の三点のことは日本に帰っても使える大切なことだと思います。だから、日本の授業だけでなく、普段の会話から使っていきたいと思いました。

三つ目に学んだことはアメリカの伝統的なスポーツ、ロデオです。ロデオについて研究するというのが私のアメリカでの課題でした。ロデオは日本では観戦することのできないスポーツです。実際にアメリカでロデオを観戦し、アメリカの文化を学ぶことができました。

CCAP に参加してたくさんのことを学びました。それを日本の授業や生活の中で多く生かしていけたらアメリカに行った意味があるのではないかと思います。

## 今度は自分たちの番だということ

引率教員 谷口 毅教諭  
(英語科・国際教育ディレクター)

ヴォーリズ先生がコロラド大学を卒業したのが1904年。その年に完成した校舎 Palmer Hall。百十余年後に、ヴォーリズ学園の高校生たちがこの校舎で学びを深めたことを、先生はどのような思いで見つめられていたのでしょうか。崇高な理念を示してくださった道城先生の笑顔は、このプログラム実現

# ただ今留学中

## 全校集会でスピーチ

111 一門 央  
姉妹校交換留学  
St.Patrick's College(オーストラリア)  
2017/721 ~ 9/2

タスマニアに来て4週間が経ちました。ホストも変わり、学校にも慣れてきました。友だちも増え、英語力もあがった気がします。1人目のホストファミリーのフランキーちゃんの家を離れる時とても悲しかったです。正直に言って、「3週間経ってやっと家に慣れたのに新しい家でやっていけるだろうか」という不安もありました。また、私はこの変更を機に、友だちも今までのフランキーの回りから離れて新しい友だちを作ろうと心に決めていました。しかし、実際その時になってみると寂しかったです。友だちにそのことを伝えると「それはすごくひろにとっていいと思う」や「辛くなったらいつでもこっちに戻っておいで」などすごくポジティブで心強い言葉をかけてくれました。で



の為に最大の後押しとなり、留学中絶えることなくその存在を感じ続けました。また多くの方々に持続可能なプログラムにするための、経済的な支えをいただいたことに感謝を表します。会計事務でお世話になった本部の方々や、募集・選考に協力いただいた各担任の先生方、不在中の業務をご負担いただいた先生方にも気持ちよく送り出していただいたことが無事に終わられた大きな要因でありました。

一方、コロラドカレッジでは、長年のお付き合いのエリクソン先生によるご尽力は、お米や炊飯器の寄付に始まりお惣菜やお菓子の差し入れ、自宅へ全員を招いての BBQ 夕食会、カレッジからの補助金の獲得に至るまで、生徒たちにとっては滞在中の母であり国際人としての見本でありました。ご寄附下さった匿名の個人がおられたという事実に国際交流の意義深さを再確認させていただきました。おかげで移動の貸し切りバスを何度も利用でき、チューターの大学生を雇って多くを学ぶことができました。さまざまな方々に守られながら日々を送っていた感覚は不思議なものでした。

理想だけでは現実には乗り越えられません。しかし理想がなければ何も現実に起こせないのも事実です。激変する社会情勢の中で、次の世代を育てることが日本の教育の命題の一つです。CCAP が果たす役割は単に英語習得に留まらず、多様な人々と触れ合うこと、自分の考えをまとめ伝える経験を積むこと、そして今いる社会は先人たちから引き継いだもので、今度は自分たちの番であることを体感することであろうと考えます。ヴォーリズ先生にとっての2月2日のような日が、ひとりひとりの生徒にもいざ来ようでしょう。信念と知識そしてさまざまな体験を持つ人を育てる第一歩を踏み出せたことを改めて感謝申し上げます。

すから、私は先週から違う人のところに行きました。先週の金曜日、私たちは全校集会で約1500人の前でスピーチをしなくては行けませんでした。す



く緊張しましたが、無事成功に終わりました。スピーチが終わってから、友だち、そしてまだ話したことの無い人がたくさん声をかけてくれたり、日本語で挨拶してきてくれたりして新しい友だちも

増えました。心の底からこの学校が大好きになり、残り2週間ということがとても悲しいです。最近、英語力が上がったな、と思うことがあります。誰かと話すとき、簡単なことでも電子辞書無しでは伝えたいことが伝えられなかったりしたのですが、最近は時間はかかりますが、なににもなくても伝えられるようになったことに自分で成長を感じています。これもホストファミリーや友だちのおかげだと思います。彼らはずっと私が理解できなくて困っていたら、わかりやすく言い換えて私がわかるように言ってくれたり、私の発音があつてかどうか確認したりしてくれました。それでもわからないときがありますが、私が本当にわかるまで助けてくれるので本当に周りの環境に恵まれてると思います。

本当に残り2週間ということが寂しいですし、悲しいです。ですから、その2週間いろんな人と話し、色々なことを経験し、悔いのないように過ごしたいと思います。  
(2017/08/21 受信)

## いろいろな人の優しさ

121 泉 真惟子

姉妹校交換留学

St.Patrick's College (オーストラリア)

2017/7/21 ~ 9/2



1軒目のホストファミリーと



ホームルームで仲良くなった友達と

タスマニアに来て4週間が経ちました。もうこちらに来てそんなに時間が経っていたのが信じられないくらいとても早かったです。3週間目にホストファミリーが変わったのですが、本当にどちらのホストファミリーも親切で、すごく恵まれた環境で勉強できていると強く感じます。1軒目のホストファミリーに、「も

しタスマニアに戻って来たら、ぜひ私達の家に来てね!いつでもウェルカムだから。」と言ってもらえて、本当に嬉しかったです。

新しいホストファミリーになって、この間は学校のお祭りのようなものに連れていってもらって、ホストスチューデントと一緒に食べ物を売ったり、お店を回ったりしました。こちらの学校は本当に活気があって、みんなが協力的にイベントを盛り上げている感じで、すごくみんなが楽しんでいるのが伝わって来ました。学校生活では、困っていたら、「手伝おうか?」とか「大丈夫?」などと今まで話したことがなかった人も声をかけてくれたりして、そういうことができるのはとてもすごいと思いました。ホームルームで仲良くなった中学2年生の子が、習った日本語で話してくれたりして、すごく嬉しかったです。何より意欲的に外国語を使って話しているのを見て、自分ももっと積極的に話さないといけないと思うようになりました。

4週間目の金曜日に全校集会でスピーチをしたのですが、終わった後に友だちがとんで来てくれて、「すごい!」と言ってくれたり、知らない人からも声をかけてもらえたりして本当にこのスピーチをしてよかったと心から思えましたし、本当に感動しました。タスマニアに来て、いろいろな人の優しさを感じて、そうやって人を手伝ってあげたり、声をかけてあげたりできることは、私はできていなかったことだったし本当にすごいなと思いました。

残りは、あと2週間ですが、悔いのないように過ごしたいと思います。(2017/08/21 受信)

## お父さんも育児や家事に積極的

111 北川 星羅

姉妹校留学

Citipointe Christian College (オーストラリア)

2017/7/15 ~ 2018/6/30 頃

A month has passed since I came to Australia. I got used to life in Australia. I was able to go shopping alone by bus. This month I felt family love.



日本ではお父さんが子育てをしたりご飯を作ったりする光景をあまり見ませんがオーストラリアではよくお父さんが子どもと遊んでいるのを目にします。8月になってすぐホストマザーが風邪で1週間寝込んでしまいました。その時はお父さんが毎日ご飯を作ってくれたり、スーパーへ食材を買いに行ったりしてとても驚きました。普段もお父さんが洗濯をしてくれます。また、休みの日には必ずホストブラザーとクリケットの練習をしています。お母さんだけでなくお父さんも育児に積極的でとてもいいなと思いました。

また、オーストラリアの人は動物をととても大事にしていると感じることがありました。私の家にジャックという犬がいます。ジャックがせきこんでいるのを見つけるとすぐに病院に連れていきました。また、仕事から帰ってくると必ずジャックの所へ行っていつも3分くらい話しかけたり、なでたりして大切にしていることが伝わってきました。

学校では水曜日の午後の時間にスポーツがあります。日本とは違って自分でしたいスポーツを選べます。バスケットボールやバドミントンはもちろんトランポリンやスケートボード、ロッククライミング、ウォーキングなど日本の体育の授業ではできないものがたくさんあります。私は、バスケットボールを選択して韓国人の女の子1人と台湾人の女の子2人が一緒にしようと声をかけてきました。彼女たちは日本のことをとても知っていて日本語にもとても興味を持っています。「日本語でこれはなんて言うの?」とよく質問してきて私自身も勉強になります。私が知らないアニメなども知っていてびっくりしました。彼女たちは同じ国の人同士でも英語でコミュニケーションをとってすごいなと思いました。

先生がみんなとてもフレンドリーで休み時間に遊んでいると一緒に遊んだり、私たち日本人を見つけると「コンニチハ〜」と声をかけてくれたりします。元気がない生徒を見つけるとすぐに「どうしたの?」と聞きにいたり、日本ではあまり見かけない光景をよく目にします。

これからこちらの生活にももっと慣れてくると思いますが、いつでも初心を忘れずに過ごしていきたいです。(2017/08/23 受信)

### おことわり

留学生センターニュースNo.246およびNo.247は、電子版のみの発行です。学園のホームページ【学園Topics】をご覧ください。